

令和5年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立宝木中学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や生徒の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって生徒を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和5年度「全国学力・学習状況調査」における本校生徒の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査期日

令和5年4月18日(火)

3 調査対象

小学校 第6学年(国語, 算数, 児童質問紙)

中学校 第3学年(国語, 数学, 英語, 生徒質問紙)

4 本校の参加状況

① 国語	129人
② 数学	128人
③ 英語	128人

5 留意事項

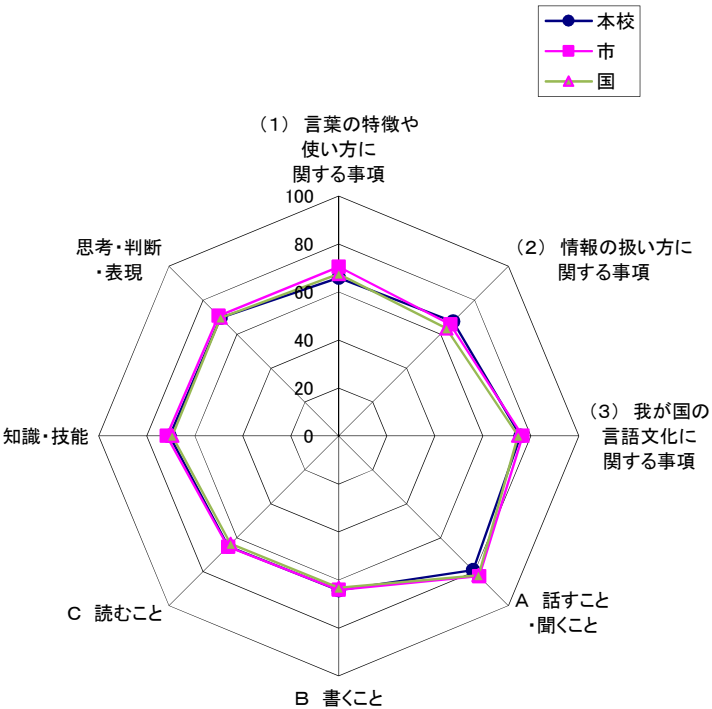
- (1) 本調査は、対象となる学年が限られており、実施教科が国語、数学、英語の3教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、生徒が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立宝木中学校第3学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【国語】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項	65.9	70.5	67.5
	(2) 情報の扱い方に関する事項	67.4	65.7	63.4
	(3) 我が国の言語文化に関する事項	75.7	76.6	74.7
	A 話すこと・聞くこと	79.1	82.6	82.2
	B 書くこと	64.3	64.1	63.2
	C 読むこと	65.1	65.3	63.7
観点	知識・技能	70.5	71.7	69.4
	思考・判断・表現	69.6	70.8	69.7
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

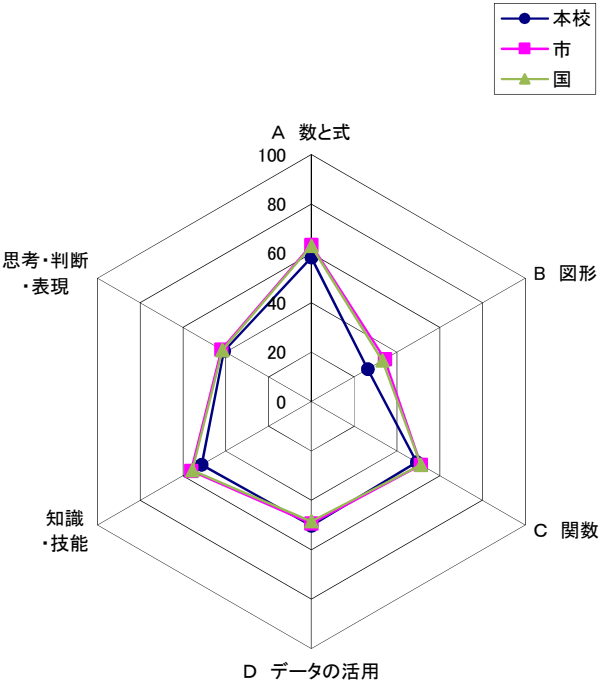
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
(1) 言語の特徴や使い方に関する事項	正答率は、市平均を4.6ポイント、全国平均を1.6ポイント下回った。 ●文脈に即して正しい漢字を書く問題では、市平均を6.2ポイント下回った。	・授業の開始時に行う漢字の小テストは、漢字の反復練習の一助となっているため、今後も継続して取り組んでいく。 ・文章読解の中で語句に注目させるなど、語彙力を増やす指導を行っていく。
(2) 情報の扱い方に関する事項	正答率は、市平均を1.7ポイント、全国平均をポイント4.0上回った。 ○意見と根拠など情報と情報との関係について問う問題では、市平均を5.0ポイント上回った。	・筆者の主張とその根拠が視覚的に理解できる方法で、文章読解を指導していく。
(3) 我が国の言語文化に関する事項	正答率は、市平均を0.9ポイント下回り、全国平均を1.0ポイント上回った。 ○文章を読んで自分の考えを深めたり広げたりすることを問う問題では、市平均を1.3ポイント上回った。 ●古典の原文と現代語の文章とを対応させて内容を捉える問題では、市平均を4ポイント下回った。	・古典作品を音読したり、暗唱させたりすることで、古文や漢文の表現に慣れさせていく。 ・過去の高校入試の問題を取り入れたり例題に数多く触れたりすることで、苦手意識をなくしていく。
A 話すこと・聞くこと	正答率は、市平均を3.5ポイント、全国平均を3.1ポイント下回った。 ●目的や場面に応じて質問する内容を検討する問題では、市平均を4.3ポイント下回った。	・「話すこと」では、スピーチの授業や物事を説明する内容を扱い、伝えたい内容を聞き手に理解してもらえるように、内容構成を指導する。 ・「聞くこと」では、聞き取りテストを定期的実施しており、話を聞くポイントを確認する機会を定期的に設けていく。
B 書くこと	正答率は、市平均を0.2ポイント、全国平均を1.1ポイント上回った。 ○読み手の立場に立って叙述の仕方などを確かめて、文章を整える問題では、市平均を1.0ポイント上回った。 ●自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にして書く問題では、市平均を0.5ポイント下回った。	・作品に対して、自分の考えをまとめたり、感想を書いたりする機会を増やす。 ・自分の考えを相手に伝えるために、効果的な文章の書き方や構成の仕方などのコツについて、実践例などを示しながら、細かく指導していく。
C 読むこと	正答率は、市平均を0.2ポイント下回り、全国平均を1.4ポイント上回った。 ○文章の構成や展開、表現の効果について、根拠を明確にして考える問題では、市平均を1.5ポイント上回った。 ●文章の要旨を把握することを問う問題では、市平均を2.7ポイント下回った。	・説明的文章の読み取りを苦手とする生徒が多い傾向がある。要約をするときのキーワードの選び方や、内容を省略しまとめるときのポイントを指導する。 ・物語教材では、四コマ漫画やイラストなどで、ストーリー展開がより理解できるようにしながら、内容をとらえられるように、指導していく。

宇都宮市立宝木中学校第3学年【数学】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【数学】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	A 数と式	58.3	63.4	63.0
	B 図形	26.3	34.3	33.2
	C 関数	49.2	51.2	51.2
	D データの活用	50.3	49.4	48.5
観点	知識・技能	51.3	56.2	55.7
	思考・判断・表現	40.9	42.1	41.6
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

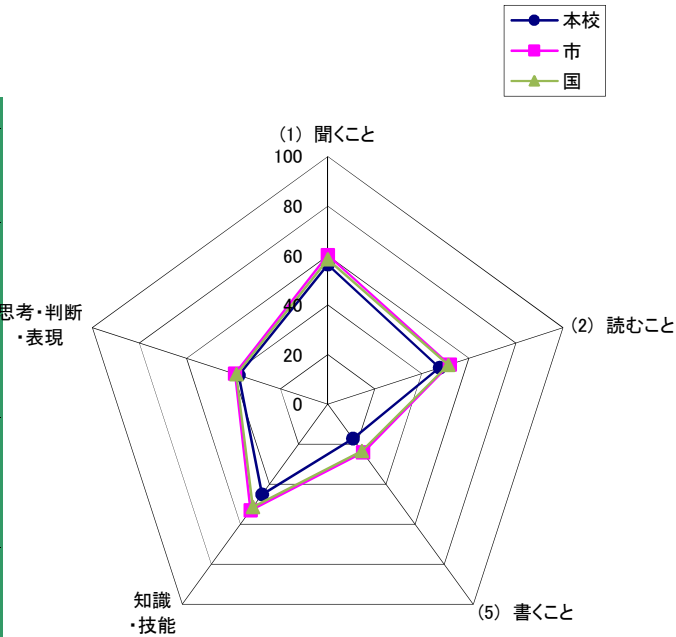
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
A 数と式	正答率は、市平均を5.1ポイント、全国平均を4.7ポイント下回った。 ○計算結果の決まりや法則についての問題は、正答率が比較的高く、市の平均とほぼ同程度であった。 ●自然数を選ぶ問題の正答率は37.5%と低く、市の平均を6.6ポイント下回った。また、基本的な乗法の計算問題の正答率は71.9%と低く、市の平均を10.4ポイント下回った。	・自然数や整数などの用語の意味を確認し、正しい知識の定着を図る。 ・乗法を用いる計算は、様々な問題を解くための基盤となるものであるため、計算の決まりについて確認し、反復練習を行う。また、反復練習を行う際は、様々な数や式についての問題を解くことで、確かな力の育成に努める。
B 図形	正答率は、市平均を8.0ポイント、全国平均を6.9ポイント下回った。 ○三角形の合同を基に、同位角や錯角が等しいことを用いて二直線の平行を証明する問題は、比較的正答率が高い。 ●空間における平面が1つに決まる場合について、正しい記述を選ぶ問題は、正答率が17.2%と低く、市の平均を15.1ポイント下回った。	・同位角や錯角の知識を証明に用いることができていたので、他の図形の知識を用いる証明問題に取り組ませる。 ・空間における平面が同一直線上にない3点で決定されることについて確認を行う。また、他の空間上における平面や直線の位置関係について、視覚的な学習活動も入れながら確認をし、知識の定着を図る。
C 関数	正答率は、市平均を2.0ポイント、全国平均を2.0ポイント下回った。 ○反比例の意味を理解し、正しい記述を選ぶ問題は、正答率が47.7%であり、市の平均を4.4ポイント上回った。 ●問題解決の方法を、グラフや式を用いて数学的に説明する問題は、正答率が33.6%と低く、市の平均を7.1ポイント下回った。	・関数において、既に身に付いている知識を他の問題に活用できるよう、様々な種類の問題演習を行い、表・式・グラフなどの知識のつながりを実感させる。 ・与えられた表やグラフから、必要な情報を適切に読み取る問題は、比較的正答率が高かったため、読み取った情報を正しく説明としての文章に書き起こせるよう、問題演習の中で取り組ませる。 ・説明をする問題は、近年、特に重要視されている問題であるので、日々の授業中の言語活動をさらに増やしていく。
D データの活用	正答率は、市平均を0.9ポイント、全国平均を1.8ポイント上回った。 ○複数の集団のデータの分布の傾向を比較して捉え、それを箱ひげ図の箱に着目して説明する問題は、正答率が42.2%であり、市の平均を7.4ポイント上回った。 ●指定された年代の四分位範囲を求める問題は、正答率が59.4%と低く、市の平均を5.8ポイント下回った。	・四分位範囲を求める問題は、基本的な知識・技能であるので、用語の意味やその求め方を再確認させ、定着を図る。 ・統計の分野についても、近年、特に重要視されている内容であるので、事象を数学的に捉えたり、それらを比較・選択・説明できるよう、問題演習に取り組んでいく。

宇都宮市立宝木中学校第3学年【英語】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【英語】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	(1) 聞くこと	56.3	60.2	58.4
	(2) 読むこと	47.5	51.8	51.2
	(3) 話すこと[やり取り]			
	(4) 話すこと[発表]			
	(5) 書くこと	17.3	24.2	23.4
観点	知識・技能	45.2	53.1	51.5
	思考・判断・表現	37.8	39.4	38.8
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
(1) 聞くこと	正答率は、市平均を3.9ポイント、全国平均を2.1ポイント下回った。 ○忘れ物に関する情報を得るために自動音声案内を聞き、最も適切な番号を選択する問題では、市平均を3.2ポイント、全国平均を2.2ポイント上回った。 ●買物の場面における会話を聞き、その内容を最も適切に表している絵を選択する問題では、市平均を15.1ポイント、全国平均を10.7ポイント下回った。	・授業中のオーラルイントロダクションの場を増やすなどして、英語を聞くことに慣れさせる。また、各Unitの扉のページやPreviewを利用し、聞き取りの問題を作成したり、問題練習の機会を増やしたりしながら、実践力を向上させる。
(2) 読むこと	正答率は、市平均を4.3ポイント、全国平均を3.7ポイント下回った。 ○友達からのメールを読み、相手が示した条件にイベントとして最も適切なものを選択する問題では、市平均を1.1ポイント、全国平均を0.8ポイント上回った。 ●事実や考えが書かれた英文を読み、考えを表している英文を選択する問題では、市平均を10.8ポイント、全国平均を9.8ポイント下回った。	・教科書の本文の内容を理解するだけでなく、本文を基にした読解問題を作成し、日本語または英語で解答させる指導をしていく。
(3) 書くこと	正答率は、市平均を6.9ポイント、全国平均を6.1ポイント下回った。 ●与えられた英語を適切な形に変えたり、不足している語を補ったりして、会話が成り立つように英文を完成させる問題では、市平均を10.5ポイント、全国平均を13.1ポイント下回った。 ●学校生活(行事や部活動など)の中から紹介したいものを1つ取り上げ、それを説明するまとまりのある文章を書く問題では、市平均を2.9ポイント、全国平均を2.7ポイント下回った。	・単元ごとの基本文を使って、自分や身の回りのことを表現させる学習内容に加えて、各単元で紹介された内容についての自分の考えを英語で表現する場を多く設ける。また、いろいろなトピックについて、自分の経験や考えをまとまりのある文章で表現させる指導をしていく。

宇都宮市立宝木中学校 第3学年 生徒質問紙

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか」では国を6.7%、県を4.7%、「毎日、同じくらいの時刻に起きていますか」では国を1.8%、県を0.2%、肯定的回答が上回っており、ほとんどの生徒が規則正しい生活を送っている。今後も継続していけるよう指導していく。

○「自分には、よいところがあると思いますか」では国を4.7%、県を2.2%、「先生は、あなたのよいところを認めてくれていますか」では国を3.6%、県を0.4%、肯定的回答が上回っている。今後も、普段の学校生活や宮っ子ダイアリーでの生徒とのやり取りなどを通じて、自己肯定感を高める指導を継続していく。

○「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」の肯定的回答は99.2%と非常に高く、国を13.7%、県を2.6%上回っている。今後も様々な機会を捉え、いじめ防止の指導をするとともに、教職員一人一人がいじめのサインを見逃さない、生徒が安心して相談できる体制の充実に努めていく。

○「友達関係に満足していますか」の肯定的回答は93.9%と高く、国を5.2%、県を4.0%上回っており、良好な友人関係が築かれていることが伺える。今後も、生徒が相互によさを認め合う活動を充実させるとともに、違いを互いに受け入れる寛容さも育てていきたい。

○「家で計画を立てて勉強していますか」では国を16%、県を8.9%、肯定的回答が上回っている。今後の進路決定に向けて、希望する進路に進むための具体的な計画を立てる指導を行っていく。

○「学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強しますか」では、2時間以上勉強している生徒の割合が45%で、国を11.3%、県を11.6%上回っている。学習に対する関心が高く、毎日、努力している生徒が約半数いる状況を周知し、学年全体で学習に向かう姿勢を高めていく。

●「朝食を毎日食べている」の肯定的回答が国を1.5%、県を4.2%下回っている。毎日朝食を食べる習慣が身に付いている生徒の割合は77.1%であることから、体のリズムを整え、やる気と集中力が高まることにつながる、朝食をとることの大切さを継続して指導していく。

●「今回の英語の問題では、聞いたことについてまとまりのある内容を話す問題がありました。その問題について、どのように解答しましたか」という質問に対し、「聞いたことを理解し、話す内容は思いついたが、その内容を表現する英語が思い浮かばなかった」と回答した生徒の割合は54.0%で、国を14.83%、県を13.7%上回っている。また、「今回の英語の問題では、まとまりのある文章を書く問題がありました。その問題について、どのように解答しましたか」という質問に対し、「書く内容は思い浮かんだが、その内容を表現する英語が思い浮かばなかった」と回答した生徒の割合は66.4%で、国を4.9%、県を1.9%上回っている。このことから、自分の考えを英語で正確に表現することを苦手としている生徒の割合が高い。今後は、学習した内容を使って自己表現する機会を増やし、英語で表現できる楽しさを味わわせる指導を充実させていく。

宇都宮市立宝木中学校（第3学年） 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
(1)『わかる授業』の推進	・生徒の考えを引き出し、思考を深められる（主体的に考えられる）発問の工夫 ・「振り返り」活動の徹底	肯定的回答は8割を超えているものの、「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」では県を2.4%、「道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいますか」では県を2.4%下回っている。興味・関心を引き出す、ねらいに迫る、思考を揺さぶるなどの発問を工夫すると、生徒が主体的に深く学ぶことにつながるよう、指導の充実に努める。 「学習した内容について、分かった点や、よくわからなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか」の肯定的回答は75.6%で、国を6.4%、県を3.3%上回っている。生徒自身の学びの過程や変容を自覚できる場面として「振り返り」活動を継続して行っていく。
(2)家庭学習のより一層の充実	・自主学习ノートの活用の充実化、点検、アドバイス、賞賛 ・家庭学習の充実	「土曜日や日曜日など学校が休みの日に、一日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む）」で「3時間以上」の回答した生徒の割合は29.8%で、国を11.5%、県を10.1%上回っている。家庭での学習習慣や主体的に学習に取り組む態度が身に付いている生徒が増えており、学びに向かう力が育っている。今後は、自分の希望する進路実現に向けた、充実した家庭学習となるよう指導を継続していく。